

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
教育目標 ①自ら学び、考え行動する生徒の育成 ②心身ともに健やかな生徒の育成 めざす生徒像 ①自分の夢を持って、その夢の実現に向けて日々努力する生徒 ②信じ合える友達と互いに磨き合って成長していく生徒 「切磋琢磨」	①あいさつ・そうじ・時間の徹底 ②生徒会を中心とした元気に活動に取り組む生徒の育成 ③落ち着いた教育環境の創造 校内研究 研究主題 「生徒の学び合いを通じて、一人ひとりの学習を保障する授業づくり」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A、国語B、数学A、数学Bはそれぞれ県平均と比べて正答率が低い。 ○数学ABで「関数」の領域が特に課題である。 ○国語ABで「書くこと」「読むこと」の観点特に課題である。 県 ○1年生の国語、数学は県平均と比べて正答率が低い。 ○2年生の国語、数学、英語は県平均と比べて正答率が低い。 ○1年生国語では「書くこと」「読むこと」の領域が課題である。 ○1年生数学では「数量や図形などについて知識・理解」が課題である。 ○2年生国語では「話す、聞く」能力が課題である。 ○2年生数学、英語では基礎的な部分が課題である。	【学習状況調査の結果】 全国 ○平日のテレビデオ等を見る時間は全国よりも長い ○学校の授業時間以外の勉強時間が1時間未満の生徒が全国と比較して多い ○授業時間以外の読書の時間は全国と比較して多少少ない ○自分には、良いところがあると思っている生徒が全国と比較して少ない ○予習・復習の時間が全国と比較して少ない 県 ○1年生2年生共に学校の授業時間以外の勉強時間は県と比較して少ない ○1年生2年生共にあいさつをする生徒は県と同じ程度でよくできている。 ○1年生2年生共に自分が好きである生徒が県と比較して少ない ○1年生2年生共平日ゲームなどをして過ごす時間が県と比較して多い

成果	課題
○2年生 3年生共に前回の調査より正解している問題の数は増えている。 ○1年生は小学校の内容が定着してきている。	○国語では文章を読みとり、自分でその内容を理解し、適切に書くことが苦手である。 ○数学では基礎的な問題を回答しようとしていない生徒が比較的多い。 ○数学では三角形の合同条件を使った証明で、「仮定」の部分がどこかと言う設問に答えられていない。 ○数学では三角形の合同を証明できていない ○数学では確率の問題が苦手である。 ○英語では単語の語意が理解できていない。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
数学の基礎的な問題を	3月までに	1・2年生が確認テストで平均正答率8割をめざす。	数学の基礎問題に放課後取り組む(問題データベースを利用する) 1週間のうち4日間放課後同じ部分の問題を解き、残り1日で確認のテストを行う。	ほぼ毎日実施することが出来た。同じ問題を繰り返し実施することで、平均正答率が8割を超えるクラスが増えてきた。	D	基本問題に繰り返し取り組む事で、問題を解く苦手が下がってきている。最終目標の平均正答率8割を達成できたクラスは少なかった。	D	粘り強く、基本問題の復習を繰り返す取組をつづけていく。問題の作り方を工夫して、生徒が常に新鮮な気持ちで取り組めるようにする。
国語で考えながら聞く習慣をつけることを	3月までに	1・2年生に社会問題について考える機会をつくる。 アンケートで確認する	宿題で新聞記事を読み取り、自分の考えをまとめる機会を増やす。	9割以上の生徒がこの課題を提出できている。生徒も考えながら書く事が出来るので意欲がわくと答えている。	B	高い提出率を維持できた。コメントを全職員書いて返すことが意欲の向上にもつながった。	B	生徒の書く力と、考える力、自分の考えをまとめる力が伸びていることを確認する指標が必要であった。今後も継続したい。
家庭学習の時間を	3月までに	1年2年3年ともに家庭学習時間 1時間以上の生徒を岡山県平均まで増やす。 アンケートにて確認する。	宿題の出し方を変えて、答えを書き写すだけでは終わらない内容にしていく。 保護者に家で一緒に勉強を見てもらう時間を作るように家庭との連携をお願いする。	3年生は75%以上が1時間以上で目標を超えた。1・2年生は家庭学習が授業に繋がるように各教科で工夫ができ、家庭学習時間が増えてきた。	C	3年生は十分な家庭学習時間を確保できていた。他の学年は時間が増えた生徒と変わらなかった生徒の差が開いてきている。	C	定期的な調査と、春に保護者の協力を得られるよう連携をさらにお願していく。宿題を頑張ると授業が分るサイクルを作っていく研修を重ねていく。

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○生活や授業の規律を中学校での生活を見据えたものにそろえていく。 ○家庭でのスマートフォン・テレビ・ゲームなどの時間を減らし、家庭学習の時間を増やす取組を学区で行う。 ○授業改善の取り組みを更に進める。 ○生徒同士のつながりを支援して、学び合いを促進させる。 ○中1ギャップの解消に向けた職員の交流や研修の機会を大切に。	テレビ・インターネット・ゲームに使っている時間を減らす取組に協力を求める。 30分間生徒と一緒に勉強を見てもらえるようにお願いし、家庭学習の時間が増えるように協力を求める。